

(報道資料)

**「熱中症に関する意識・実態調査2021」を実施  
ウィズコロナ時代におけるマスク着用と熱中症対策の両立への意識が向上  
「暑さ指数」「熱中症警戒アラート」の認知は広がったものの活用に課題**

2021年7月19日

株式会社タニタ

健康総合企業の株式会社タニタ（東京都板橋区前野町1-14-2、社長・谷田千里）は、ウィズコロナ時代において感染症と熱中症の予防対策の両立がより一層求められる中、「熱中症に関する意識・実態調査2021」を実施しました。今回の調査で特徴的だったのは、新型コロナウイルスのワクチン接種後もマスクを着用しようと思う人が約8割となり、今夏もマスク着用時の熱中症を防ぐ正しい行動が求められているということです。また、熱中症の危険度を表す「暑さ指数（WBGT）※1」や環境省と気象庁が今年4月から全国で運用を開始した「熱中症警戒アラート※2」の認知はあがっているものの、実際に熱中症のリスクを判断する情報として活用している人は少ないという実態が明らかになりました。本調査は一昨年、昨年に続いて3回目の実施となるもので、全国の15歳以上の男女1000人を対象に、2021年6月29日ー7月1日の3日間、インターネットリサーチにより調査しました。

具体的には、「暑さ指数（WBGT）を知っているか」を聞いたところ、認知率は48.4%となり、2019年の42.0%、2020年の45.8%と年々上昇している傾向がみられました。また、「熱中症警戒アラート」について知っているかを聞いたところ、認知率は63.0%と、半数を超える結果となりました。一方で、「熱中症にならないために気にしているもの」を聞いたところ、屋内・屋外ともに「気温」が最も多く、「暑さ指数（WBGT）」や「熱中症警戒アラート」を参考にしている人は全体の1割にとどまりました。熱中症の発生リスクは「気温」だけでなく、汗の蒸発に関する「湿度」や、日射・照り返しなどの「輻射熱」も関係します。熱中症指数計で「暑さ指数（WBGT）」を確認し、発生リスクを正しく把握することが、熱中症予防の第一歩と言えます。

ウィズコロナ時代における「新しい生活様式」では、基本的な感染症対策としてマスクの着用が挙げられています。新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいますが、「ワクチン接種後もマスクを着用しようと思う」人は77.2%に上り、年代別でみると50代以上では8割を超えています。ワクチン接種後も、引き続きマスクを着用して、感染症対策を徹底しようと考えている人が多いようです。さらに、「猛暑日でもマスクを着用しようと思う」も昨年より8.4ポイント上昇しており、季節問わずマスク着用が習慣化されている様子が見えてきます。そこで重要になるのが、熱中症予防との両立です。「適宜マスクをはずすこ

と」が熱中症予防のポイントの一つとなりますが、その認知率は昨年から10.7ポイントの大幅上昇となりました。環境省と厚生労働省は、屋外で人と2メートル以上離れているときは、熱中症を防ぐためにマスクをはずすことを推奨しています。状況に応じてマスクを正しく使うことへの理解は進んでいると言えそうです。今後はその実践と徹底が求められます。

在宅時のエアコン使用状況については、日中・夜間・就寝中の3つの時間帯ごとに聞きました。いずれの時間帯においても「室温は関係なく、暑いと感じたときに使用している」という回答が最も多くなりました。自身が暑いと感じたときにエアコンを使用することは大切ですが、高齢者は暑さや寒さに対する感覚が鈍くなります。体感だけでなく、温度や湿度をチェックし、時間帯を問わず適切な室内環境を保つことが重要です。さらに使用状況を時間帯でみると、就寝時にエアコンを使用しない人が2割となり、特に60代以上の男性にその傾向が強いことがわかりました。他の設問で「熱中症にならない自信がある」と答えた人の割合が最も高かったのも60代以上の男性です。熱中症は年齢に関係なく発生します。健康を過信し、「自分は大丈夫」と油断するのではなく、熱中症の発生リスクに対する正しい知識を身につけることが大切です。

タニタでは熱中症指数計の製造・販売だけでなく、自治体と協働し住民に対する熱中症リスクの「見える化」や、啓発セミナーを行うなど、ハードとソフトの両面から熱中症予防に取り組んでいます。熱中症は対策することで100%予防できる疾病といわれています。今後も、熱中症に関わる商品を展開するとともに、熱中症予防に関する様々な情報を発信していくことで、生活者の熱中症予防や健康づくりをサポートしていきます。

※1 暑さ指数(WBGT)は、気温だけでなく汗の蒸発に関係する湿度、日射・照り返しなどの輻射熱を取り入れた熱ストレスを表す指数で、単位は度(°C)。乾球温度(気温)、湿球温度(湿度に関係)、黒球温度(輻射熱)の値を使って計算します。

※2 環境省と気象庁が熱中症のリスクが高まった際に対策を呼び掛けるもので、2021年4月28日から全国での運用が開始されました。気温や湿度、日射量などを基に算出した「暑さ指数」が33°C以上と予測された際に発表されます。

■「熱中症に関する意識・実態調査2021」の詳細はこちら

[https://www.tanita.co.jp/cms/press/pdf/2021/heatstroke\\_research.pdf](https://www.tanita.co.jp/cms/press/pdf/2021/heatstroke_research.pdf)

### お客様からのお問い合わせ先

株式会社タニタ お客様サービス相談室  
ナビダイヤル: 0570-099655  
受付時間: 平日9:00-18:00

本資料に記載されている情報は発表日現在のものです。このため、時間の経過あるいは後発的なさまざまな事象によって、内容が予告なしに変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。